

# 校友会報 116



目次		
校友会と学園の強い連携を願って 南雲 芳夫.....1	学園の活動状況.....8	平成7年度 事業計画(案) 収支予算書(案).....16
学園の近況について 北郷 薫.....2	支部だより.....9	阪神大震災特集.....17
3D手話翻訳システムを目指して 長嶋 祐二.....4	部会報告.....10	兵庫県地区被災地居住者名簿.....17
学園だより.....5	校友会新役員紹介.....11	阪神大震災踏査報告 小嶋 勝朗.....19
学園本部 大学 専門学校 高等学校	総会開催のお知らせ お知らせ.....13	阪神大震災に遭って 石田 俊文.....21
	平成6年度 収支計算書 貸借対照表 財産目録.....15	



## 校友会と学園の強い連携を願って

社団法人 工学院大学校友会  
会長 南雲 芳夫

ついこの前、なつかしい顔が集い、聞き覚えのある声を耳にしたあの神戸の街が、神戸の港が……。私達の第11回の校友会全国大会を見事に仕上げてくださいました大切な旧友達の身の上にこんなひどいことがふりかかってしまった。友の一人一人に励ましの声をかけ、せいぜい義捐金をなにかしかに寄せるぐらいのことしかできない。自分が砂粒のように小さく見える。

兵庫県支部の校友各位に対し、改めて昨年の全国大会開催の労に感謝申し上げます。そして、この未曾有の大震災による諸々の悲しみを共に耐えるために、及ばずながら心からの黙禱を捧げます。

六甲の紅葉の連山はよかった。見慣れた安心できる日本の美だった。港の方の街並は潮風と共に何やら異国風の香りと光を漂わせていた。非日本の美だった。内と外の世界のつながりを感じさせる内実が神戸にはあった。平清盛が対宋貿易のための港をつくったのもこの辺りであり、溯って遣唐使の船もここから出発し帰港したかもしれない。こんな歴史の積み重ねが今の神戸の時間の背後にある。住む人々も異髪異顔が同居していることが当たり前という振る舞いであった。しかし、この人並みの神戸への漠然とした感想の中で、工学院が誇る「技術の学びの場」としての将来像が私なりに刺激されたのである。

この3年ばかり校友会活動の中核の仕事をする機会を与えられたお陰で、世界に誇る工学の權威に私自身が啓発される幸運を得た。その一人でもある北郷理事長、大橋学長は研究者としての素晴らしい業績に基いて、「グ

ローバル化」が21世紀を象徴するキーワードであると、お会いするたびに熱情的に説かれている。教育者としてのその点に心をくだかれておられるのであろう。

私の願う学園の将来像も「グローバル化」に結びついている。神戸の街はやがて立ち上がりもっと大きな窓や扉を世界にむかって開くだろう。私達の学園も持っている技術を外に発信するだけでなく、世界の技術が当たり前顔をして同居する工学教育の場になっていってほしい。そのためには工学という枠組を越える学園に成長していくのかもしれない、などと次から次と熱い思いだけはふくらんでいく。

校友会会長に改めて推挙された御挨拶が後回しになりましたが、兵庫の校友に免じてお許し願います。校友会の活動は校友相互の親睦をはかることに止まらず、学園と校友をさらに緊密に結ぶ役割を荷っています。校友会は学園の成長に貢献することをいつも考えていなければなりません。その一方で、学園がその実学という特質を生かして、実業人としての多数の校友に「生きた情報」や「仕事に生かせる新技術」を提供する「卒業生にも身近な学園」を目標とすることを願う次第です。その情報や技術がグローバルな価値をもっているなら、これはすばらしいことです。

今後3年間、真心をもって愚直に校友会の発展に尽くす所存です。至らざる場合が多々あります。校友各位のお叱りをいただけたら幸いと思っております。来年の秋には第12回校友会全国大会を学園で開催する予定です。諸々のことに御協力を心からお願いして筆を置きます。

## 学園の近況について

理事長 北郷 薫

まず、本年の1月17日に阪神地方に発生した地震により神戸市とその近くに在住されていた校友の方々が大きい被害を受けられましたことに対しお見舞いを申し上げます。一日も早く回復されますようお祈り致します。本学園と致しましても、及ばずながら被災地の援助活動にはいろいろの形で参加致しております。

本学園の校友の皆様が全国的に多方面において活躍していただける実績が認められ、昨今の就職難の時代においても大学、専門学校、高校ともに就職は好調です。

いま日本では以前から言われていた15才人口あるいは18才人口の急減の時期に突入しています。18才人口については平成4年(1992年)に205万人の最高値から平成6年には186万人に減少し、その後も減り続け平成20年代には120万人台まで減少します。15才人口はこれより3年早いペースで変化します。従って通常の流れに従っていたのでは、各学校の入学志願者の数も、大学、専門学校は18才人口の、高校は15才人口の減少に合わせて減少することになります。

平成6年度の本学園の各学校に対する入学志願者数は大学、高等学校ともに前年度の数より増加しました。これは、大きい成果であります。専門学校の入学志願者は前年度の数よりいくらか減少する見込みです。専門学校は、今後、さらに研究して特色を目立たせて発展させる必要があります。

何故、多くの大学や高校の入学志願者が減少の一途をたどっているなかで、本学の大学と高校の入学志願者が下げ止り、わずかではありますが増加したのか。それは永年にわたって、本学園の教職員の皆さんが本学園の発展のために努力してきたこと、在学中の学生、生徒諸君の活動、卒業生の校友の皆様が社会における活動が認められてきたことが重なって力を発揮したのでありましょう。

伊藤学長時代の昭和55年(1980年)から「学園将来計画」の検討が開始され、その時の全教職員の英知を結集して昭和58年に「学園将来計画大綱」が発行されました。この「大綱」は、本学園が18才人口の変動に耐えながら発展するための基本方針を決定したものです。

新宿校地の再開発により、新宿に新校舎とオフィスビルを建設し、新校舎内の研究・教育設備を刷新すること、八王子校地も再整備して新しい研究・教育設備を備える

こと、学園の教育、研究内容について自己批判して改革すること等が同「大綱」の基本方針でした。

とくに、新宿校地再開発工事の主要部は18才人口が最大を示す1992年(平成4年)までに終了していることが要望されていましたが、その望み通りに新宿新校舎の高層棟が1989年、中層棟とオフィスビル(エステック情報ビル)が1992年に竣工しました。

八王子校地においても大学では多くの新研究棟が建設され、高校には新体育館が建設されました。

国公立の別なく、学校施設の老朽化を改善する必要が叫ばれているなかであって、本学園は自主的な工夫によって、施設の刷新を実現したのであります。

教育、研究内容の改革も昭和50年代から続けています。この改革の方が建物や設備の刷新よりも難しく遅れているのは事実です。しかし確実に進行しています。

ここで、それらを逐次申し上げることはできませんが、別の広報紙「窓」などをよくご覧になっていただきたいと思えます。そのうち一つだけとり上げますと大学院の充実があります。本大学は大学院修士課程を昭和39年(1964年)に、博士課程を、昭和41年(1966年)に開設しましたが、入学する学生数も少なくどちらかという低迷していた期間が長く、1990年(平成2年)でも修士課程で1、2年合わせて97人でした。最近、大学院が急速に発展し、1995年度は、1、2年合わせると約400人近くの修士課程在生になりました。文部省のいう「倍増計画」は本学においては簡単に達成でき4倍増を達成しています。これに満足することなく大学院はさらに充実する方針です。

これからの高等教育では大学院が大切であり、大学院が充実すると、大学学部、専門学校、高校にも良い影響を与えて各学校の入学志願者も増えます。

学園の宣伝は大切です。しかし、「空」宣伝であっては逆効果です。本学園のように校舎、設備を刷新し、教育、研究内容を刷新、充実しながら、その内容を「よく見てもらう」という宣伝であるべきです。

いうまでもなく、本学園における教育、研究の充実・刷新は十分ではありません。これから成すべきことは山積しています。われわれはそれらの問題点を解決しながら前進しています。

校友の皆様が益々のご活躍をお祈りします。

### 3 D 手話翻訳システムを目指して

長嶋 祐二  
電子工学科 昭和53年卒

#### 1. 国内における手話の現状

わが国において、何らかのかたちで「聞こえ」に障害をもつ聴覚障害者が、平成3年度の厚生省調査によると約35万3千人にのぼるとされている。さらに、難聴者も含めるとその人数は10倍にもふくれあがるといわれている。聴覚障害者は、音声と聴覚による情報伝達の代わりに、手話をコミュニケーション手段の1つとして利用している。日常生活ではNHKテレビの手話講座「みんなの手話」をはじめ、手話通訳付きのテレビ放送など映像メディアの中で手話に接する機会が増えつつある。

図1に示すように、手話は、話し手が伝達したい情報を表情が付加された身振り動作により受け手に伝える一種の視覚言語である。手話動作のうち、手の型・掌の方向・位置・動きの4つの構成要素は、手指動作と呼ばれている。また、表情・口形・うなずきなどの要素は、非手指動作と呼ばれている。

国内で用いられている手話は、その文法的な特徴と音声言語との関連から表1のように大きく3つの種類に分類される。このように、手話は生活習慣や環境などの影響を大きく受ける言語であるため、地域性が強く各地で手話の表現型式が異なってくる。この問題を解決するため、日本では全日本聾啞連盟を中心として、手話表現の統一化について検討が進められている。

欧米の手話研究は進んでおり、すでに一つの言語学体系として確立している国もある。一方、わが国ではようやく日本手話の言語学的研究が盛んに行われるようになり、一つの言語体系として認める気運がでてきた。

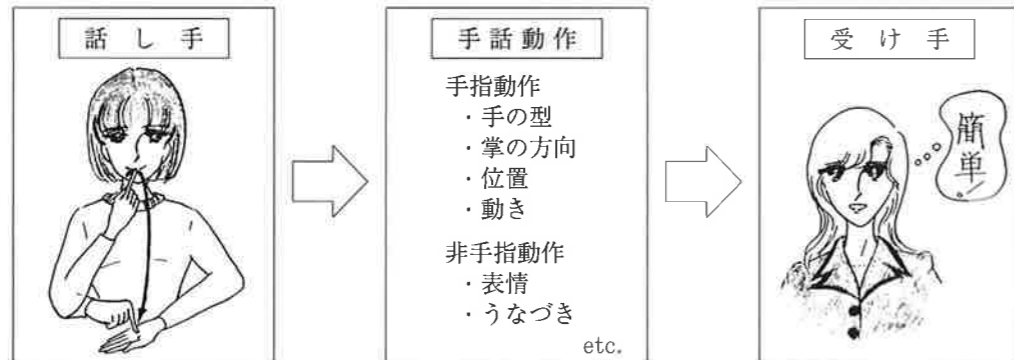


図1：手話による情報伝達の過程

また最近、手話に対する関心が高まり、手話を学際的に研究する手話工学研究が注目されつつある。工学的な研究の一環としては、日本語と手話の相互翻訳システムを開発している大学や企業のグループがある。

筆者も、工学および言語学の両面から手話を解析し、図2に示すような手話と日本語の相互翻訳を究極の目標としたシステムを検討している。このシステムは、提案しているNVS形態モデル、音声表記モデルを中心とした電子化辞書を用いて、日本語から手話、逆に、手話から日本語への翻訳を行う。手話の入力には、高価なデータグローブなどではなく非接触なカメラからの映像を用いているところに特徴がある。一方、手話の表示は辞書内の音声表記記号からアニメーションを自動生成する。

それでは、制作中のシステムの概要を簡単に述べる。

#### 2. 手話言語解析部

1. に述べたように、手話は日本語や英語と同様に1つの言語である。したがって、翻訳を行うためには手話を言語学的かつ工学的に解析しなければならない。そこで、音声言語学的解析手法をとりいれ、新しく階層的な形態音韻論モデルとしてNVS形態を提案した。さらに、このシステムの音声表記モデルは、英語などの発音記号(IPA International Phonetic Alphabet)と同様に、表記のみから手話の動きを理解することなどができ、アニメーションの生成にも役立つように設計した。手話単語「歩く」のNVS形態および音声表記例を示す。

{歩く} := N(#CL) V(#Move) := {h+h<sub>12</sub><sup>⊗</sup>}-h-

表1：日本における手話の種類と特徴

手話の種類	特徴
日本手話	<ul style="list-style-type: none"> <li>聾者が用いる手話</li> <li>日本語文法とは異なる文法体系をもつ</li> <li>地域性や個性が強く現れる (方言と個人語)</li> </ul>
日本語対応手話	<ul style="list-style-type: none"> <li>手話化あるいは手指化された日本語</li> <li>日本語概念の習得を目的に作られた (人工手話)</li> <li>助詞、助動詞も表現する</li> </ul>
中間型手話 (ビジン手話)	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語と日本手話が混濁した手話</li> <li>各語は主に日本語手話の語を適用する</li> <li>語順はほぼ日本語文章に従う</li> <li>通訳などの場面でよくみられる</li> </ul>

#### 3. 3Dアニメーション生成部

このアニメーションは、汎用のパソコンで生成できる。また、右眼と左眼画像を交互に表示する機能があるため、1,000円程度の液晶シャッター眼鏡をかけることにより両眼視差画像で立体的に見ることもできる。これにより、手話で大切な空間の3次元的位置が容易に理解でき、学習システムにも好都合となっている。このウィンドウ風な表示例(右眼画像)を図3に示す。このシステムでは、光ビデオディスクからNHK手話ニュースでお馴染みの中野佐世子さんの映像も検索し、見ることができる。

#### 4. 手話認識部

手話を認識するには、手の形、提示する位置および手の運動軌跡の理解が必要である。

現在、単眼カメラで撮影した上半身の静止画像から手の形を、動画像から運動軌跡を認識する方法の研究を進めている。

#### 5. 今後の展望

聴覚障害者と健聴者のコミュニケーションの円滑化を目指すための支援システムとして、3D手話翻訳システムの概要について簡単に述べた。本システムは、マルチメディア電子化辞書としてCD-ROM化も容易に行える。

聴覚障害は目に見えない障害であるため、他の障害福祉と比較すると若干立ち遅れている。今後、様々な分野から研究が進められ、障害者のコミュニケーションギャップが軽減されることを期待する。

最後に、未来を視野に入れた“地球にやさしい”研究や機器の開発がますます盛んになることを切望する。

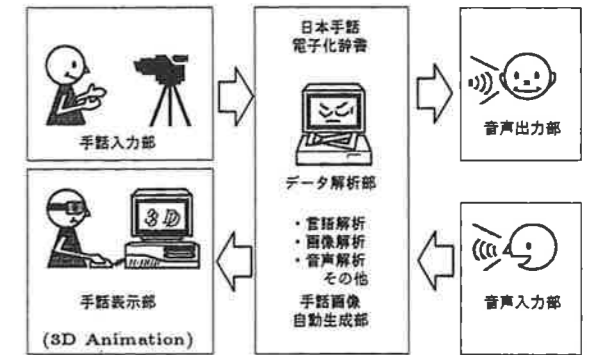


図2：相互翻訳システム



図3：3Dアニメーション表示例

● 学園だより

学園本部

- (1) 平成6年度の学園関係者の叙勲叙位の方は下記のとおりです。
  - 従五位 故 故 麦島 興 名誉教授
  - 正四位 故 故 天草 卯 名誉教授
- (2) 今井 功 顧問、名誉教授は、平成6年12月12日に行われた日本学士院会員補充選挙において日本学士院の新会員に選出されました。
- (3) 雇用保険制度の適正事務と円滑な運営に対して平成6年12月1日付で労働大臣表彰を受賞す。

大 学

教務部長 水野 宏道

○本年度入試の状況

本学の入試は多様な能力、適性を選択する目的で、第1部は推薦入試（指定校、本学高校、理科・科学論文）、編入学、一般入学（前期、サテライト、後期）、第2部は推薦入試（公募、社会人、本学高校）、編入学、一般入試に分けている。このうち、推薦入試、編入学は昨年末までに終了した。

第1部の一般入試はサテライト（大阪、北九州、仙台）を含め2月6日～9日、後期入試は3月6日に実施し、それぞれ9,905名、1,594名の志願者があり、前年比3.5%、33%の増加であった。また、本年度より大学入試センターのセンター入試を採用し4,815名の志願者があった。第2部の一般入試は3月7日に実施し、志願者は1,076名で前年比較で5%となった。多くの大学が志願者を減らし、受験界の予想に反して本学の志願者が増えた実績は喜ばしいが、昨年は約25%減少しているため油断は禁物である。より多くの受験生を獲得する全学的取り組みが必要と認識している。

編入学に関しては第1部に17名、第2部に136名の応募があり、それぞれ前年の2倍、3倍の急増である。特に、第2部の社会人再教育需要は今後共増傾向が見込まれ、受入れに対する積極的な取り組みが必要な時期にある。

高等教育機関として大学院の充実が重要である。また、修士課程修了者への社会的ニーズも高く、学内外の志願者も増加している。

昨年度より既設四専攻に加え情報学専攻がスタートした。社会人の受け入れを考慮し情報学専攻は昼夜開講制を実施した。既設四専攻も本年度より実施に向け昼夜開講制と電気工学専攻を除く定員増を文部省に申請中である。大学院の充実、活性化は研究、教育の両面に寄与し、大学の社会的評価を高める原動力になる。本年度より Semester制を導入し4月と10月の入学を可能とする。平成7年度の大学院在籍者は修士課程1年204名、2年190名、博士課程17名である。

○大学のアクティビティ

18歳人口の減少、青少年の理系離れが顕在化している。本学は生存と発展を掛け教育の特色発揮、研究活動の高度化、広域化に対応する組織化、社会に対する貢献を具体的、積極的に推進している。

第1部は大学設置基準の大綱化に沿う新カリキュラムを本年度入学生より実施する。学生の多様な能力、適性を最大限に伸ばす内容と科目選択の枠を拡大した。教育効果を高め、学生の自主的学習を促す環境を整えることが重要である。第2部は社会人の再教育、多様な教育需要を配慮し、本年度よりカリキュラムを含む大幅な改革に着手する予定である。校友会会員の皆さんの御支援を切にお願いしたい。

研究活動を組織化し、支援するため昨年度より総合研究所が発足した。研究の高度化、広域化に対応した助成を行うと共に、研究活動と成果公表の一元化を推進するのが目的である。国際化に対応し海外における研究発表を助成する制度は教員のほか大学院生にも適用され、年を追って発表件数は増加している。

大学の教員は教育のほか、研究活動を通して将来の研究者を育成し、研究の成果は公表する義務を負う。学協会の学術活動と運営の支援、学協会や官公庁における法令、規格の制定に参加するなどの社会活動も行っている。また、大学には研究成果や専門知識を広く社会に還元する啓蒙活動が求められている。本学の生涯学習センターは社会のニーズを先取りし、一般市民を対象とする公開の各種講座、シンポジウム、講演会を開催し、開かれた大学として積極的に地域社会への普及運動を展開し高い評価を得ている。新宿キャンパスを利用した国際会議、学会、学術上の展示会、本学と共催の講演会などが頻りに開催されている。

本学が昨年度より実施した新たな活動に「全国高等学校理科・科学クラブ研究論文募集」と「大学の先生と楽しむ理科教室」がある。高等学校の理科・科学クラブの活動を支援し、優秀な研究成果に対する表彰と推薦入学枠を設定したこの企画に対し、全国的な反響が大きかった。初の試みにもかかわらず全国から121件の申し込み、95編の応募があった。大学教授による厳正な審査により最優秀賞1編、優秀賞3編、努力賞11編を選考し、審査評を付し公表した。上位4編は10月31日、創立記念日典に各高校教諭1名、生徒2名を招待し学長より表彰を行った。この制度による推薦入学者は5名であった。この企画は本年度も発展的に継続する。

理科教室は小中学生を対象とし、不思議な科学現象、面白い実験など54の演習テーマを用意し、八王子市、日野市、相模原市の各教育委員会の後援を得て、夏休みも終りに近い8月20日に八王子キャンパスを開放して実施した。この体験学習には当初予想を上回る1,200名の参加者があった。参加した小中学生の気も上々であり、マスコミにも採り上げられ予期以上の成果を得た。この催しは大学教員と職員、付属高等学校の教諭と卒業生、学生と生徒諸君の全学的協力体制で実現したものである。大学と高校、教員と職員の連帯感が生まれた意義も大きい。この企画は後援を御願する教育委員会の範囲を広げ、演習テーマをより充実して本年も実行する予定である。

本学は建学以来、有能な人材を多数輩出しているが地味であり、知名度も低い。独自の活動を通じ、本学の存在感を高める努力を全学的に積極的に展開する。

専門学校

◆成績優秀学生表彰（10月31日）

学園創立107周年記念日に、下記の学生が成績優秀者として表彰された。

◇月原奨学生

昼間部	電子2年	井川 俊之
	応化2年	遠藤 晶子
夜間部	土木2年	三上 優子
	建築2年	岡野 圭子

◇岩城奨学生

昼間部	機械2年	鈴木 秀人
	電技2年	石井 聡
夜間部	応化2年	敷島 保男

◇鈴木奨学生

昼間部	建築2年	小坂 英忠
-----	------	-------

◇工学院大学専門学校奨学生

昼間部	土木2年	遠藤 貴之
夜間部	電子2年	萩原 清邦

◆東京都専門学校野球大会

◇第19回春季大会

5月16日	開会式（府中球場）
5月17日	1回戦（東綾瀬球場）
	日本スクールオブビジネス 2：11（敗戦）

◇第9回選手権大会

7月5日	開会式（杉並区公会堂）
8月24日	1回戦（夢の島球場）
	東京外語専門学校 0：4（敗戦）

◇第19回秋季大会

10月13日	開会式（杉並区公会堂）
10月18日	1回戦（東綾瀬球場）
	東京栄養食料専門学校（試合不成立）

◆東京都専門学校サッカー大会

◇第13回春季大会

5月25日	1回戦（江戸川篠崎グラウンド）
	国際音楽学校 5：0（不戦勝）
5月31日	2回戦（江戸川篠崎グラウンド）
	東放学園専門学校 3：6（敗戦）

◇夏季大会

	1回戦 不戦勝
8月29日	2回戦（駒沢競技場）
	東京会計専門学校 1：0（勝利）
8月30日	3回戦（駒沢競技場）
	ビジュアルアーツ 0：4（敗戦）

◇第13回秋季大会 不出場

◆省エネカー競技会（自動制御研究会）

◇第1回 波崎省エネカー燃費競技大会

6月12日に茨城県波崎町 住友金属波崎研究センター 特設コースで行われ、総合24位（専門学校2位）の成績を収めた。

◇第14回 ホンダ・エコノパワー燃費競技全国大会  
9月17、18日に茨城県谷田郡、日本自動車研究所・高速周回路で開催され、専門学校の部で10位の成績であった。

◆ソーラーカー競技会（自動制御研究会）

'94ワールド・ソーラーカー・ラリー・イン・アキタ  
7月28、29日に秋田県大潟村「大潟村ソーラースポーツライン」で開催され、「ワールド・ソーラーバイシクル・レース」で100kmを完走し結果は18位であった。

◆後援会総会（6月25日）

年1回の定例総会が多数の会員の参加で開催された。総会終了後、各クラス担任との懇談・個人面談を行った。

◆第15回電卓検定試験（7月3日）

受験者数 185名 合格者数 152名 合格率82.2%  
全国平均の合格率は 76.6%

◆体育実技授業（昼間部）

A日程 7月17日～21日  
テニス サッカー バレーボール 卓球



B日程 8月31日～9月4日  
テニス ソフトボール  
C日程 2月26日～3月2日  
スキー

◆建築科研究科卒業式（10月4日）

第31回を数える今回は、45名の卒業生を送り出した。式終了後記念パーティーを行い門出を祝った。

◆東京都公害防止管理者2級合格者（平成5年度）

応用化学科	昼間部	2年			
			浅見 和彦	安彦 光朗	阿部 麗
			杉山 勝	田中 太朗	成山 英一
			林 秀樹	廣岡 有文	山岸 卓也
応用科学科	夜間部	2年			
			島田 和亮	富永 雅美	根本よう子
			藤川 勉		

## 高等学校

### ○一般教室の空調工事が完了

長年の課題であった一般教室の空調工事が完了し、各教室にはクーラーが設置され暑い日には涼しく快適な教室で勉強することができるようになりました。

### ○美術室の移転工事が完了

中学校の開設に伴い陶器を焼くための釜を設置したり、さらに生徒の学習環境を整えるために面積も広げるなど美術室の拡充計画を立て、工事をして平成7年3月末に旧柔道場に移転しました。

### ○放送部（顧問 渡部知弥）

平成6年度の放送部の活躍は、第41回NHK杯全国高校放送コンテストテレビ部門に、「サケよ帰れ多摩川に」を出品し、東京都大会で優勝。第18回全国高等学校文化祭では、ビデオレー部門で東京都代表として、「図書館オープニングセレモニー」を出品し、文化連盟賞。平成6年度東京都高等学校文化祭には、テレビ部門に、「休み時間がほしいよ〜」を出品し、優勝。アナウンス部門で2年7組小林陽一君が入賞しました。

テレビ部門はいずれも社会性を話題にした作品でしたが、構成もよく好評をいただきました。

部員一同来年度の作品に精を込めている昨今です。

### ○サッカー部（顧問 佐藤 勝）

我々サッカー部は平成6年度新入部員を加え総勢78名でスタートしました。グラウンドが狭く練習には大変苦労していますが、工夫と努力により克服しています。その結果、地区予選では負けることなく全ての大会で都大会に出場する事が出来ました。今後は都大会においても上位を担えるチームになれる様努力していきたい。

#### 〈主な大会結果〉

平成5年11月 新人戦兼関東大会地区予選ブロック優勝  
6年4月 関東大会都予選出場  
5月 インターハイ地区予選ブロック優勝  
5月 インターハイ都大会出場  
9月 全国高校サッカー選手権大会都大会出場  
11月 新人戦兼関東大会地区予選ブロック優勝

平成7年4月 関東大会都大会出場決定  
（都大会は第7地区49校の代表として、また地区選抜チーム（17名）に本校より2名が選抜されて、国体代表選手（東京選抜）一次選考の大会に出場しています。

### ○野球部（部長 宮澤義勝 監督 高橋憲治）

ここ数年野球部は西東京大会では上位に入る常連校の上上がった。平成6年度も宿敵国学院久我山にベスト8で激突し延長10回退敗した。また秋季大会は昨年と同じカードとなり日大三高に惨敗した。しかし近い将来夢の甲子園のキップを手にする様今日も練習に力が入っている。ご声援をよろしく願います。



体育館エントランス

平成3年	準決勝	対 国学院久我山	ベスト4
平成4年	準決勝	対 創価高校	ベスト4
平成5年	準々決勝	対 国士館高校	ベスト8
平成6年	準々決勝	対 国学院久我山	ベスト8

### ○生徒会活動

3年前から始めた缶とピンのリサイクル活動が活発となり、新聞などマスコミにも紹介されるようになりました。他校からも問い合わせがきたり、見学にきたりするほどです。社団法人食品容器環境美化協会からは功績が認められ、「空き缶圧縮機」（つぶしアルミとスチールに分別する機械）50万円相当の機械が贈呈されました。今後も続けてゆき校内美化、資源問題に真剣に取り組んで行きたいと思えます。また、1月には阪神大震災の義援金活動も校内で行い約14万円を寄付しました。

### ○文化セミナー

平成6年10月20日（木）八王子市民会館において、「第4回文化セミナー特別講演」が開催されました。今年は東京都生活文化局の協力を得て、アジアの恵まれない子供達への支援を続けている八王子在住の写真家 木下健氏を講演者としてお招きし、「ひりとだけのNGO」の演題で講演していただきました。

### ○進路状況

2月22日現在の進学者の内訳は工学院大学I部に187名、II部に77名、その他の大学として、東京農工大学、多摩大学、創価大学、鶴見大学、日本大学、東京工芸大学、日本体育大学、明星大学、西東京科学技術大学、職業能力開発大学校、亜細亜大学、東北芸術大学、九州共立大学、愛知産業大学、日本文化大学、帝京大学、CICカナダ国際大学、セイラム大学、東海大学短期大学へ合計25名、工学院大学専門学校に6名、他専門学校に28名で、就職に12名、未定は74名（受験中を含む）です。

### ○入学応募状況

平成7年度の入学応募状況は推薦入学定員男子200名に対し197名、一般入学定員男子200名に対して、1,089名があった。

## ●学園だより

### 学園の活動状況

平成6年度の学園の活動状況を学園の刊行物の中から抜粋し、要約して広く校友の皆さんにご紹介します。尚、下記情報資料は、学校企画部からご提供頂いたものであります。厚く御礼申し上げます。  
（校友会企画部、広報部）

#### 大学院

##### 1) 情報学専攻修士・博士課程新設

平成6年4月大学院工学部に情報学専攻の修士・博士課程を同時開設。社会人特別選抜制度を取り入れ、社会人に開かれた大学院づくりの第一歩をスタート。

##### 2) 大学院公開講座

第一生命保険相互会社、日本生命保険相互会社の後援とエステック株式会社の協賛による大学院公開講座を開設し、開かれた大学としての新しい教育事業を展開させた。平成6年度は3回実施し、企業の技術者や研究者等から大変な好評を頂いた。因みに第2回の時は500名を越す参加者で、この種の科学系公開講座としては、異例の盛況ぶりであった。

##### 3) 大学院生の海外研究の助成

本学では、大学院生の研究活動の支援をしており、平成6年の申請は7件あった。院生の海外研究補助を行っている大学は、全国でもあまり多くはない。この制度の一層の充実が求められている。

#### 大学

##### 1) 理科・科学教育振興事業

①全国初の第一回『全国高等学校理科・科学クラブ研究論文推薦入学制度』による推薦入学試験資格を付与し、数名を採用して関係機関から評価された。平成7年度も引き続き実施することとして、募集要項等を昨年末に全国の高等学校に郵送した。

②小学高学年および中学生を対象に、単一大学では最大規模の（わくわくサイエンス祭）『大学の先生と楽しむ理科教室』を平成6年8月に実施し、地域社会から大きな注目を集めた。



##### 2) 伸びた企業に占める本学卒業生の割合

「週間ダイヤモンド」（11・19号）調査によると、伸びた企業に占める本学卒業生の割合は、他大学を大きく引き離し、総合大学を含む全大学中第3位である。他大学が苦戦している中、早くからほぼ全員内定している。あた女子学生の内定率が高いことも特筆される。

##### 3) 文部省の科学研究補助金

文部省が交付している、科学研究補助金の取得額は、本学は平成5年度に総合大学（工学系部科）を含む全私立大学中で全国7位であった。これは、本学の研究活動が活性化している現われである。

##### 4) 教育環境の整備

新宿校舎は、高層棟・中層棟共全館冷暖房を完備している。八王子校舎は、冷暖房装置のない教室もあったが、平成6年の夏、全教室に冷暖房装置を設置し、学習環境を整備した。

学校法人工学院大学 学園広報紙

### 『窓』の定期購読のおすすめ

学校法人工学院大学の最新情報を満載した学園広報紙『窓』の定期購読をおすすめ致します。

現在、約1,000名のOBの方々に定期購読を頂いております。購読料は、2年間（年4回発行）で送料共1,000円です。

お申し込みは企画部へお願いします。

電話 03(3342)1211(代表)

学校法人工学院大学・学園広報委員会

●支部だより

平成6年度支部総会開催報告

(組織部)

平成6年度の支部総会は、58支部中36支部で開催されました。特に、本年度はここ数年間総会を開催していない岩手県、鳥根県の両支部は新任支部長さんを選出し、また福井県支部は、現支部長さんで再出発致しました。母校のために、多くの卒業生の皆さんにお集まり頂き、その輪を広げ、母校の発展のために、お力添えを頂ければと願う次第であります。

校友の皆さんには、日頃大変ご多忙とは存じますが、是非お近くの支部総会にご出席頂きますようお願い申し上げます。支部総会開催支部は、下記の通りです。

- 4月17日(日) 山口県支部
- 4月24日(日) 広島県支部
- 5月22日(日) 千葉県支部
- 5月29日(日) 埼玉県支部
- 6月11日(土) 大阪支部、宮城県支部
- 6月17日(金) 山梨県支部
- 6月18日(土) 山形県支部
- 6月23日(木) 中野支部
- 6月25日(土) 高知県支部
- 6月26日(土) 熊本県支部、新宿支部
- 7月1日(金) 東芝支部
- 7月2日(土) 横浜支部、川崎支部、相模支部、湘南支部、西湘支部
- 7月3日(日) 富山県支部、大分県支部
- 7月9日(土) 岩手県支部
- 7月24日(日) 栃木県支部
- 9月10日(土) 北海道支部、鳥根県支部
- 9月17日(土) 青森県支部
- 9月18日(日) 東京支部
- 9月24日(土) 福井県支部
- 9月30日(金) 台湾支部
- 10月22日(土) 秋田県支部
- 10月29日(土) 兵庫県支部
- 10月30日(日) 新潟県支部
- 11月22日(火) 沖縄県支部
- 11月25日(金) 日電県支部
- 11月26日(土) 京滋県支部
- 12月9日(金) 長崎県支部
- 12月10日(土) 鳥取県支部

平成7年度支部総会開催予定

平成6年度の会報(第115号)で37支部の総会開催予定日のご案内を致しましたが、愛知県支部外3支部が都合により開催することが出来ませんでした。

しかし、鳥根県や岩手県支部などは、新しい支部長さんを選出して再出発致しました。どうぞ一人でも多くの皆さんに参加頂ける素晴らしい支部になりますようお願い申し上げます。

さて、平成7年度の各支部の支部総会開催予定日を下記にお知らせ致しますので、参加ご希望の方は日時、場所などを再確認頂きますようお願い致します。

(平成7年2月28日現在)

- 長野県支部 鳥羽支部長 0268-27-7899  
4月8日(土) PM 5:00 松本駅々前 東急イン
- 広島県支部 花田支部長 082-237-1720  
4月16日(土) PM 2:30 (広島市内)

- 清水建設支部 進藤支部長 0467-43-1780  
4月21日(金) PM 6:00 清水建設本社内
  - 栃木県支部 柿木支部長 0286-35-5511  
5月21日(日) AM10:00 宇都宮市内 ホテルニューイタヤ
  - 岩手県支部 工藤支部長 0197-23-4642  
5月27日(土) PM 2:00 盛岡市内 労働福祉会館
  - 埼玉西支部 谷口支部長 0493-22-1361  
6月11日(日) PM 3:00 東松山市内 紫雲閣
  - 山梨県支部 加藤支部長 0552-52-8212  
6月23日(金) PM 6:00 甲府市内 紫玉苑
  - 高知県支部 三輪支部長 0888-60-6067  
6月24日(土) PM 6:00 (高知市内)
  - 新宿支部 高野支部長 03-3342-1211(内2659)  
6月24日(土) PM 6:00 新宿校舎
  - 熊本県支部 吉永支部長 0968-74-2439  
6月25日(日) PM 1:00 熊本市内 産業文化会館
  - 大分県支部 檜崎支部長 0975-46-0246  
7月1日(土) AM11:00 大分市内 金大寿司
  - 千葉県支部 佐藤支部長 0474-48-4811  
7月2日(日) PM12:00 幕張メッセ国際会議場
  - 神奈川県下5支部 杉山支部長 0466-25-0634  
7月8日(土) PM 1:00 横浜ランドマークタワー 70F シルクス
  - 北海道支部 馬淵支部長 011-781-7854  
9月9日(土) PM 6:00 札幌市内 ホテルKKR札幌
  - 鳥根県支部 江角事務局長 0853-72-0350  
9月9日(土) PM 3:00 出雲市内出雲厚生年金会館
  - 東京支部 坂田支部長 0423-65-2955  
9月10日(日) PM 1:00 母校新宿校舎
  - 青森県支部 外川支部長 0172-36-4034  
9月30日(土) PM 5:00 八戸市内
  - 台湾支部 劉支部長 011-886-2-596-9565  
9月30日(土) PM 5:00 台北市近郊
  - 八南支部 菊池支部長 0426-24-5062  
10月7日(土) PM 5:00 八王子労政会館
  - 日本電気支部 田中支部長 03-3453-0348  
10月予定(金) PM 6:30 日本電気本社内
  - 鳥取県支部 尾崎支部長 0858-23-1531  
10月予定(土) PM 5:00 境港市内
  - 新潟県支部 谷口支部長 0254-26-0087  
10月29日(日) PM 1:00 新潟市内
  - 京滋支部 伊藤支部長 0749-22-7470  
11月11日(土) PM 4:00 京都市内
  - 長崎県支部 江口支部長 0958-79-0395  
12月8日(金) PM 6:00 長崎市 和泉旅館
  - 鹿児島県支部 角田支部長 0992-68-4501  
12月予定 AM11:00 鹿児島市内
  - 山口県支部 溝上支部長 0834-21-1785  
4月16日(土) PM12:00 ホテル萩本陣
- 下記の支部は、総会日時未定に付きご確認下さい。
- 山形県支部 平吹支部長 0236-43-3093
  - 宮城県支部 中村支部長 022-278-5355
  - 大阪支部 近藤支部長 06-862-8987
  - 愛知県支部 山崎支部長 0561-84-1557
  - 岐阜県支部 松原支部長 0582-32-8055
  - 福井県支部 千田支部長 0778-22-4170
  - 兵庫県支部 岡本支部長 078-391-0935
  - 福岡県支部 麻生支部長 092-962-0322
  - 秋田県支部 富樫支部長 0188-46-1061
  - 宮崎県支部 福山支部長 0987-24-0112
  - 静岡県支部 山崎支部長 054-256-2520

●部会報告

総務部

阪神大震災に対し心よりお見舞い申し上げます。

工学院大学校友会では、昨年3月、文部省の実地調査の際に指摘された社団法人としての活動がどうあるべきかという事を、今、見直しています。そのひとつとして昨年6月、英語弁論大会の後援を吉岡事務局長が中心になって行いました。また、今年1月に発生した阪神大震災に対する募金活動を行っており、既に300万円のご協力を得ております。会員の皆様から拠出して頂くものと併せ、兵庫県支部にお贈りする予定です。

平成6年度会議開催状況

- 理事会(4回)
- 4/13 平成5年度事業報告、決算報告について
- 9/27 全国大会について
- 12/16 次期評議員集会について
- 3/24 平成7年度事業計画、予算について

総会および評議員会

- 5/29 平成5年度事業報告、決算報告について
- 平成6年度事業計画、予算について
- 常任理事会(6回) 監査会(1回)
- 総務部会(6回) 財務部会(1回)
- 広報部会(3回) 企画部会(1回)
- 事業部会(2回) 組織部会(5回)

今期をもちまして校友会理事を退任いたす事と成りました。多年に亘りご支援賜りました事に厚く御礼申し上げます。

(総務部長 酒井史生)

財務部

校友会会員諸氏におかれましては、ご健勝のこととお喜び申し上げます。校友会協力会費のご協力を通し、校友会へのご支援、厚くお礼申し上げます。今後10年の収支の財政計画を検討してきました。校友会創立100周年行事、5年、10年後の校友会のビジョンが作成できれば、その実行の担当、また100周年行事はビジョンの一部を達成する好機であり、これらに対する財政計画が急務と考えています。ごぞんじのように校友会の会員が毎年増加するにも関わらず、財源は在学中に納入する会費、基金の利息と会員諸氏の協力会費によって賄われています。財産の構築と会費+利息+協力会費の3本柱に裏付けされた、アクティブな活動が出来る体制を維持するには、現在検討中ですが数年後に会費改訂の必要となります。会員諸氏の協力会費のいままでに増すご支援を切に、お願い申し上げます。今年度の財務部会は

1. 校友会100周年行事準備予算について
2. 1995(H7)年度予算案について
3. 体育会連合OB会援助願いについて審議致しました。

(財務部長 関口 勇)

事業部

先ず初めに、阪神大震災に被災された校友の皆様方に対し、心からお見舞い申し上げます。

本年度の事業部の主な活動の概要につきまして以下にご報告致します。

1. 第11回全国大会(兵庫県大会)

「魅力ある街神戸で、旧交を温め、有意義な楽しい一時を過ごしませんか……」をスローガンに、平成6年10月29日(土)、神戸市中央のメリケンパークにて行われた。

この日は、朝からよい天候に恵まれ、北郷理事長初め多くの先生方をお迎えし、校友240名の参加を得まして、スローガン通りの大盛況で、有意義な全国大会が、大成功の内に終わることが出来ましたこと、この場をお借りしまして、本大会の運営に当たられました実行委員長の岡本支部長を始め各実行委員の方々に対しまして心から厚く御礼申し上げます。

また、全国の校友の皆様には、この大会にお寄せいただいたご厚意とご支援に対し厚く御礼申し上げます。

最後に、この輝かしくも大成功に終始した大会の日から、僅か79日後に起きた未曾有の大震災により、あの美しい港、町並みが見る影もなく無惨な姿に変貌して、テレビに映し出され、何とも言い様のない気持ちにかられましたが、皆様の心で幾許かとお察し申し上げます。

希望を捨てずに頑張ってください。

2. 校友会新年賀詞懇親会

本会は、平成7年1月21日(土)に新宿校舎28階会議室にて、学園関係者をお招きして楽しく行われた。

(事業部長 石成 和男)

企画部

昨年度は学園の卒業生を対象にした校友会のパンフレットを始めて発行しましたが、その目的は会員になった時点で校友会活動の内容をより早く知って頂くことにあります。パンフレットの内容は、概略下記の通りです。○校友会の目的と活動、○校友会の組織と歴史、○校友会支部一覧表、○新会員への校友会の具体的な活動内容のお知らせ、その他阪神大震災に対しての校友・学園への支援協力等の報告となっております。

尚、パンフレットの内容につきましては、各支部の総会の際に、一般会員の皆さんに配布して頂き、ご意見をお聞かせ頂ければ幸いに存じます。

今年度は、特に校友会の本来の目的である学園に対しての資金などの支援活動を提案致しました。

1. 『大学の先生と楽しむ理科教室』
2. 『全国高等学校理科・科学論文募集』
3. 『大学学生研究発表会優秀者への援助』
4. 『専門学校製図作品展への援助』
5. 『高等学校学園祭への援助』

校友会としましては、今後も学園発展のための支援協力を企画して参りたいと思います。

(企画部長 小高 鎮夫)



● お知らせ

表彰 (平成6年度総会に於いて)

- (1) 名誉会長 推戴状贈呈  
元会長 足立 剛一  
前会長 丹羽 宏之
- (2) 学生・生徒の表彰状贈呈

種別	学 科 学 年	氏 名
大 学 院	機械工学専攻修士課程2年	川 西 弘 城
	工業化学専攻修士課程2年	岩 田 光 平
	電気工学専攻修士課程2年	馬 目 聡 整
	建築学専攻修士課程2年	飯 鉢
大	第1部 機械工学科2年	大 曲 由一郎
	〃	佐 藤 豊
	第2部 機械工学科2年	清 水 洋 祐
	第1部 応用化学科2年	市 川 和 洋
	〃	富 沢 陽 子
	化学工学科2年	大 畑 宙 生
	第1部 電気工学科3年	松 本 弘
	電子工学科3年	染 谷 日出海
	第2部 電気工学科情報工学コース3年	長谷川 牧 子
	第1部 建築学科建築学コース2年	寺 井 義 一
〃 都市デザインコース2年	猪 俣 恵 里	
第2部 建築学科2年	田 村 あゆみ	
専 門 学 校	昼間部 電子情報科2年	大 谷 洋 行
	応用化学科2年	藤 波 香 織
	夜間部 土 木 科2年	秋 野 雅 一
	機 械 科2年	坂 口 教 子
	建 築 科2年	伊 藤 佳 彦
	電 気 科2年	三 井 哲 雄
高 等 学 校	普 通 科3年	片 山 徹
	〃 2年	手 塚 耕一郎
	〃	川 崎 龍

支部だより

千葉県支部創立40周年記念事業

「創立40周年記念総会開催・記念名簿発刊」

千葉県支部長 佐藤正吾

千葉県支部は、平成7年6月26日で創立40周年を迎えます。平成2年には「創立35年誌」の発刊を行いました。今年には「創立40周年記念名簿」の発刊と同時に、平成7年7月2日(日)12時より、幕張メッセ・コンベンションセンターにて、「超高層の光と風そしてハイテクの都市＝幕張メッセ＝」を講演のテーマとして地方色豊かな「創立40周年記念総会」を開催予定です。現在着々と準備を進めております。

約4,000名の支部会員は、支部活動と同時に、県内を東・西・南・北そして中央(千葉政令都市)に区分して、それぞれ独自の懇親会等を開催しております。昭和61年に開催しました「第7回全国(千葉)大会」の新たな支部造り以来、校友会本部また各支部のご支援を得て今回お陰様で「創立40周年」を迎えることになりました。幕張メッセの見学を兼ねながら、総会ご出席希望の方は本部または千葉県事務局に是非ご連絡下さる様お願い致します。

尚、総会当日は、3月11日NHKより紹介された、小さな旅「湾岸都市・若い鼓動千葉市幕張」を総会前に放送致します。

訃報 謹んでご冥福をお祈りします

阿久津 利	校友会前栃木県支部長 平成6. 8. 29 逝去
丸山 篤	校友会前理事 平成6. 9. 29 逝去
麦島 與	工学院大学 名誉教授 平成6. 10. 18 逝去
杉山 慎	新宿支部相談役 東光電気工事(株)元会長 平成6. 11. 24 逝去
天草 卯	工学院大学 名誉教授 平成6. 12. 15 逝去

募金のお願いと御礼

今回、同封してある郵便振替用紙(加入者名社団法人工学院大学校友会)により①維持協定会費、②阪神大震災募金(1口各3千円)のお願いをいたしました。

①はS57年4月以降発足した賛助会費を、H4年名称変更したもので、発足当初の趣旨は⑦同窓会・校友会の合併により、会費を納めて頂くよう復活する。④学生会費とのバランスを助案する。ということでありました。納入実績ある方の総数は3,500人に及び、毎年納入される方は800人となっております。その用途は3割を納入者居住地の支

部に還元する外7割を本部積立とすることとしており、残高は2,800万円となっています。

毎年納入して頂く多くの方に厚く御礼申上げるとともに、会費とはいうものの、実態は少額の募金であることをご理解頂き、校友諸兄のご協力をお願いするものであります。

②は、大震災の発生に伴い、兵庫県支部に義援金を差上げるよう推進して欲しい旨の要望が強く、既に300万円弱のご協力を頂いておりますが、この際、広く会員にお願いして欲しいとの要望があり、両者を連結してご協力をお願いする次第であります。是非ご協力下さい。

(事務局)

難病とたたかうひと

「筋萎縮性側牽硬化症」(ALS)という病気がある。

原因不明の進行性神経疾患で、運動神経がおかされ、筋力が衰え、体の自由を奪われて、言語障害・呼吸障害をおこすとのことである。患者は全国で4千人あるが治療法は見つかっていないらしい。

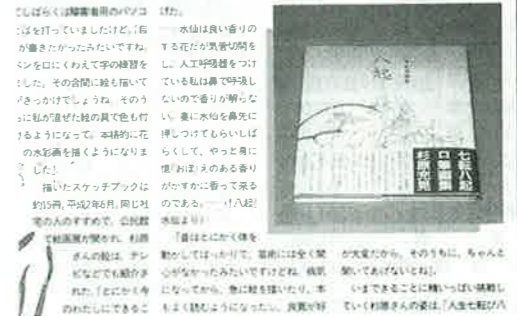
昨秋のある日、信山社という出版社の人が訪ねて来て、ALSに罹病した本学OBが、今回口で筆をとって画いた画集を同社から出版した。その人の名は杉原充晃(S42年電卒)といい、長女を白血病で亡くした今井信山社長のご尽力で出版したものであるが、母校の方々に紹介して欲しい旨のご依頼があった。

信山社は、本郷赤門前にあり、法学書の出版に令名があるが、同社の執筆陣の在阪の先生がN T T大阪勤務であった杉原氏のことを今井社長に依頼して下さったとのことである。

私は、このことを学校法人鈴木企画部長と電

口筆画集「八起」出版

杉原充晃さん



気同窓会総務幹事である高橋静昭先生に連絡し、それぞれ機関紙に掲載して紹介して頂くよう依頼したのである。

この程学園広報紙「窓」101号が配布されたが表紙の写真及びP11口筆画集「八起」出版として掲載して頂いた。その取材は間然することのない充実した記事でこれ以上ない紹介記事になっている。そのコピーを掲載し「窓」をお読み頂くようお願いして紹介に代え、あらためて健康に恵まれることを神に感謝する次第である。

(事務局 吉岡)



## 平成6年度収支計算書

平成6年4月1日から平成7年3月31日まで

(単位:円)

科目	予算額	決算額	差異	科目	予算額	決算額	差異
<b>(収入の部)</b>				役員交通費	( 800,000)	( 310,370)	( 489,630)
基本財産運用収入	220,000	255,000	△ 35,000	旅費・交通費	( 200,000)	( 44,409)	( 155,591)
基本財産利息収入	( 220,000)	( 255,000)	(△ 35,000)	通信費	( 5,907,000)	( 5,823,919)	( 83,081)
会費収入	29,372,000	29,372,750	△ 750	振替手数料	( 100,000)	( 76,768)	( 23,232)
会費収入機械工学同窓会	( 4,358,000)	( 4,358,000)	( 0)	事務用品費	( 700,000)	( 649,063)	( 50,937)
会費収入応化会同窓会	( 3,333,000)	( 3,333,000)	( 0)	消耗備品費	( 100,000)	( 30,569)	( 69,431)
会費収入電気同窓会	( 5,433,000)	( 5,433,000)	( 0)	印刷製本費	( 1,890,000)	( 1,420,786)	( 469,214)
会費収入建築学科同窓会	( 4,067,000)	( 4,067,000)	( 0)	修繕費	( 100,000)	( 60,152)	( 39,848)
会費収入高校同窓会	( 4,251,000)	( 4,251,750)	(△ 750)	賃借費	( 280,000)	( 279,336)	( 664)
会費収入専門学校同窓会	( 7,930,000)	( 7,930,000)	( 0)	貸借費	( 200,000)	( 188,741)	( 11,259)
維持協力会費収入	3,500,000	3,861,000	△ 361,000	対外費	( 300,000)	( 200,660)	( 99,340)
維持協力会費収入	( 3,500,000)	( 3,861,000)	(△ 361,000)	慶弔費	( 300,000)	( 200,660)	( 99,340)
雑収入	3,406,000	4,586,547	△ 1,180,547	公租公課	( 130,000)	( 9,900)	( 120,100)
受取利息・配当	( 3,406,000)	( 4,084,036)	(△ 678,036)	雑費	( 300,000)	( 305,714)	(△ 5,714)
寄付金収入	( 0)	( 320,000)	(△ 320,000)	消耗什器具	( 0)	( 512,703)	(△ 512,703)
雑収入	( 0)	( 182,511)	(△ 182,511)	人件費	8,693,000	8,242,698	450,302
当期収入合計(A)	36,498,000	38,075,297	△ 1,577,297	給与手当	( 7,545,000)	( 6,952,620)	( 592,380)
前期繰越収支差額	3,000,000	2,836,547	163,453	福利厚生費	( 648,000)	( 729,078)	(△ 81,078)
収入合計(B)	39,498,000	40,911,844	△ 1,413,844	退職金	( 0)	( 361,000)	(△ 361,000)
<b>(支出の部)</b>				退職給与引当預金支出	( 500,000)	( 200,000)	( 300,000)
事業費	12,950,000	13,246,164	△ 296,164	固定資産取得支出	300,000	422,297	△ 122,297
会報・出版費	( 2,530,000)	( 1,925,070)	( 604,930)	投資有価証券購入支出	( 300,000)	( 422,297)	(△ 122,297)
学生・生徒奨励金	( 750,000)	( 1,274,749)	(△ 524,749)	特定預金支出	2,700,000	4,964,254	△ 2,264,254
支部対策費	( 4,500,000)	( 4,499,506)	( 494)	会館建設引当預金支出	( 0)	( 1,764,254)	(△ 1,764,254)
総会等大会費	( 2,000,000)	( 3,339,236)	(△ 1,339,236)	減価償却引当預金支出	( 200,000)	( 0)	( 200,000)
広報部費	( 200,000)	( 104,530)	( 95,470)	協力会費引当預金支出	( 2,500,000)	( 3,200,000)	(△ 700,000)
組織部費	( 200,000)	( 128,740)	( 71,260)	予備費	911,000		
事業部費	( 470,000)	( 228,138)	( 241,862)		△ 500,000		411,000
企画部費	( 500,000)	( 287,395)	( 212,605)	当期支出合計(C)	36,998,000	37,863,333	△ 865,333
協力会費割戻金	( 1,300,000)	( 958,800)	( 341,200)	当期収支差額(A)-(C)	△ 500,000	211,964	△ 711,964
予備取崩(体育会援助費)	( 500,000)	( 500,000)	( 0)	次期繰越収支差額(B)-(C)	2,500,000	3,048,511	△ 548,511
運営費	11,944,000	10,987,920	956,080				
本部会議費	( 937,000)	( 1,074,830)	(△ 137,830)				

(注) △印は予算比超過となる金額である。

## 平成6年度貸借対照表

平成7年3月31日現在

(単位:円)

資産の部	金額	負債及び正味財産の部	金額
1.流動資産	99,466,641	1.流動負債	96,418,130
2.固定資産	127,992,815	2.固定負債	2,018,183
		3.正味財産	129,023,143
		(うち基本金)	( 10,000,000)
合計	227,459,456	合計	227,459,456

## 平成6年度財産目録

平成7年3月31日現在

(単位:円)

資産の部	金額	負債及び正味財産の部	金額
流動資産		負債	
1.現金・預貯金	98,989,195	1.一般預かり金	99,130
2.短期有価証券	476,446	2.在学生会費預り金	93,687,000
3.仮払金	1,000	3.未払金	100,000
固定資産		4.仮受金	2,532,000
1.基本財産引当預金	10,000,000	5.退職給与引当金	2,018,183
2.什器備品	6,364,999	正味財産	129,023,143
3.電話加入権	102,800	(うち基本金)	( 10,000,000)
4.長期預金	111,525,016		
合計	227,459,456	合計	227,459,456

## 平成7年度事業計画(案)

事業に関する定款条文	事業内容
学校の教育施設の改善に関する助成 (定款第5条第1項)	1. 学校法人工学院大学と協議の上で援助する。 2. 学園将来計画に協力する。
学校に在籍する学生、生徒の学習活動および就職指導ならびに教職員の調査研究の助成 (定款第5条第2項)	1. 学生、生徒の研修援助。 (1)優秀な学生を各学校毎に表彰する。 (2)学生の研修活動の支援を行う。
会誌および学術図書の刊行 (定款第5条第3項)	1. 校友会報の発行。 2. 会員名簿の刊行。 学園コンピューターシステムによる会員名簿の作成。
学術に関する講演会および見学会等の開催 (定款第5条第4項)	1. 学術講演会を開催する。
会員相互の親睦提携および学校との連絡を図るに必要な施設の設置 (定款第5条第5項)	1. 第12回全国大会(東京)の開催を支援する。 2. 懇親会等を開催する。 3. 支部の支援、支部組織の活性化を図る。 4. 阪神大震災募金活動を行う。
学校の行う就職あつせんおよび紹介に関する援助 (定款第5条第6項)	1. 就職あつせん、事業所の紹介等の援助を行う。

## 平成7年度収支予算書(案)

平成7年4月1日から平成8年3月31日まで

(単位:千円)  
△印は前年度より減を示す

科目	予算額	前年度予算額	増減	科目	予算額	前年度予算額	増減
1収入の部				広報部費	200	200	
基本財産収入	220	220		組織部費	200	200	
会費収入(6単体)	32,261	29,372	2,889	事業部費	190	470	△ 280
協力会費収入	3,500	3,500		企画部費	500	500	
雑収入	3,734	3,406	328	通信費	466	466	
当期収入合計	39,715	36,498	3,217	振替手数料	100	100	
前期繰越収支差額	3,000	3,000		事務用品費	700	700	
収入合計	42,715	39,498	3,217	消耗備品費	100	100	
2支出の部				印刷製本費	877	527	350
●事業費	(16,649)	(15,341)	( 1,308)	修繕費	100	100	
会報・出版費	2,530	2,530		賃借費	280	280	
学生奨励金	1,250	750	500	対外費	200	200	
通信費	5,910	5,440	470	慶弔費	300	300	
印刷費	1,458	1,363	95	公租公課	130	130	
協力会費割戻金	1,300	1,300		雑費	300	300	
給与手当	3,822	3,641	181	調整費	1,708	911	797
福利厚生費	379	317	62	●固定資産取得支出	( 300)	( 300)	
●管理費	(19,566)	(18,156)	( 1,410)	投資有価証券購入	300	300	
総会等大会費	2,300	2,000	300	●積立預金	( 3,200)	( 3,200)	
本部会議費	937	937		会館積立預金	0	0	
役員交通費	800	800		協力会費積立預金	2,500	2,500	
給与手当	4,085	3,904	181	減価償却引当預金	200	200	
福利厚生費	393	331	62	退職給与引当預金	500	500	
旅費交通費	200	200		当期支出合計	39,715	36,998	2,718
組織対策費	4,500	4,500		当期繰越収支差額	0	0	
				次期繰越収支差額	3,000	2,500	500

●兵庫県地区被災地居住者名簿

阪神大震災 被災地域(神戸、西宮、芦屋、宝塚、明石、尼崎 各市及び淡路島)  
居住者の名簿を下記に掲載します。復旧が速であることを祈るとともにお知りの方に  
に激励して頂くようお願いします。(編集部)

(機 械)			
高橋 栄一	651-11	神戸市北区泉台7-10-7	
千住 哲夫	655	神戸市垂水区塩屋北町3-3-1	
住賀 文則	659	芦屋市南宮町6-3 芦屋第9コーポラス308	
玉井 文伸	674	明石市二見町西二見633-7	
升谷 隆平	673	神戸市西区枝吉1-101 県営玉津高層514号	
小大 林勝	658	神戸市東灘区渦森台2-7-108	
大押 岸徹	662	西宮市新甲陽町10-26 甲陽寮402	
松元 昭人	659	芦屋市南宮町14-D-206	
小岡 林信	653	神戸市長田区御屋敷道1-1-20 日本機材貿易(株)内	
小深 林草	652	神戸市兵庫区矢部町2-6	
由井 敏弘	663	西宮市里中町2-2-3 寿マンション	
黒田 郁也	673	明石市和坂2-15-5	
河上 浩利	665	宝塚市山本南1-3-7	
尾本 幸和	679-02	神戸市西区高雄台19-3	
武原 世紀	655	神戸市垂水区多聞町小東山868-361	
	655	神戸市垂水区高丸7-6-2 三菱電気垂水寮312号	
	673-02	神戸市西区押部谷栄205-182	
(応 化)			
掛井 文雄	674	明石市魚住町清水1409-4	
岩本 嘉浩	659	芦屋市大東町9-1 メガロコープ芦屋710号	
庭野 七郎	663	西宮市甲子園春風町6-10	
大阪 平祐	662	西宮市仁川百合野町8-1	
渡辺 英一	658	神戸市東灘区深江南町2-12-8-208	
深見 博	655	神戸市垂水区千代が丘2-2-8	
松村 伊佐	665	宝塚市高司4-4-7-4-307	
清沢 敏雄	654	神戸市須磨区白川台2-45-2-8	
白木 和	655	神戸市垂水区向陽3-4-10	
藤山 正	663	西宮市甲子園7番町8-3 新甲子園マンションA510	
本間 喜弘	662	西宮市若松町6-10	
山田 喜正	662	西宮市大谷町11-35-504	
福増 山修	661	尼崎市武庫豊町3-2-25-306	
加登 啓二	659	芦屋市若葉町4-2-412	
須田 龍生	651-22	神戸市西区糍台4-16-1-401-503	
鷹野 直道	663	西宮市枝川町10-67-105	
山口 多賀司	655	神戸市垂水区上高丸2-1-705	
西川 喜三郎	655	神戸市垂水区松風台2-1 グリーンコーポジェームス山2-207	
岡田 幸良	658	神戸市垂水区高丸7-4 B-401	
伊藤 相明	658	神戸市東灘区深江南町3-4-34 東邦レーヨン深江寮210	
李村 相明	665	宝塚市雲雀丘2-2-10	
	654	神戸市須磨区離宮西町1-2-20-706	
	651-11	神戸市北区泉台4-1-1	
	658	神戸市兵庫区塚本通3-3-8 大和化成(株)内	
	651-11	神戸市北区鈴蘭台北町6-12-1 昭和産業鈴蘭台社宅203	
	651	神戸市中央区旗塚通6-2-8	
	650	神戸市中央区港島中町3-1-44-1405	
(電 気)			
鏡石 博	656	洲本市上物部345-1	
貴田 富雄	658	神戸市東灘区住吉本町1-13-22-308	
渡辺 昭	662	西宮市大畑町28-1神谷方	
新中 家稔	654-01	神戸市須磨区横尾2-7-9	
渡辺 健夫	665	宝塚市旭町1-6-10-405	
樫本 志夫	665	宝塚市中山桜台6-17-1-1214	
高石 和彦	656-05	兵庫県三原郡南淡町新田中274	
森原 一	651-21	神戸市西区池上1-7-5 バルピア20-101号	
	651-22	神戸市西区美賀多台1-8-605	
	662	西宮市平木町3-7-303	

長谷部 昌宏	655	神戸市垂水区高丸7-6-8 高丸アパート1-208
山崎 健一	665	宝塚市米谷2-10-14
加藤 藤博	665	宝塚市宝梅2-6-34-203
田部 憲一	655	神戸市垂水区多聞町字小東山868-790 ネオライフ学園緑ヶ丘802号
尾原 彦	658	神戸市東灘区甲南町1-3-17-503
小菅 林吉	655	神戸市垂水区塩屋町6-14-9-2207
	655	神戸市垂水区旭ヶ丘2-2-2 川崎重工業第3旭ヶ丘寮2101
	654-01	神戸市須磨区菅の台6-4-10
(建 築)		
大友 隆	651-12	神戸市北区日の峰4-17-4
小寺 義	662	西宮市北名次町10-23
岡本 聖	650	神戸市中央区栄町通5-1-17-1003
湯原 主	665	宝塚市安倉南3-1-16
向山 世	661	尼崎市兵庫之荘5-13-3-602号
泉谷 良	655	神戸市垂水区本多聞4-3-203-104
渡部 慶	659	芦屋市大榑町1-10
山田 準	663	西宮市甲子園三番町10-18-208
安藤 龍	663	西宮市上大市4-2-10
上村 芳	659	芦屋市若葉町2-1-143
鈴木 政	658	神戸市東灘区本山中町4-15-5 アーバンライフ本山中町206
佐渡 政	661	尼崎市武庫之荘東1-20-1
谷村 陽	654	神戸市須磨区離宮西町2-5-16-502
佐々木 文	654	神戸市須磨区北落合3-14-7
和木 健	655	神戸市垂水区塩谷北野4-9-9
鈴木 良	651-11	神戸市北区星和台6-8-2
石田 俊	665	宝塚市南口1-6-1
稲垣 文	658	神戸市東灘区本山南町8-5-6-608号
米沢 海	663	西宮市高須町2-1-25-1213
二野 由	650	神戸市中央区東川崎町1-4-3-211号
大前 正	665	宝塚市野上6-5-14-404
阿部 浩	650	神戸市中央区港島中町6-14 ポートピアプラザF-707
粕谷 中	661	尼崎市椎堂1-13-1 園田パークホームズ312
田中 本	651-15	神戸市北区道場町塩田1136
尾崎 修	657	神戸市灘区篠原北町1-1-27 六甲コーポラス206号
柏谷 中	658	神戸市東灘区向洋町中1-4-124-1109
清谷 野	658	神戸市東灘区向洋町中1-4-429-801
松本 和	660	尼崎市東難波町2-4-26 久保田鉄鋼難波独身寮
中村 孝	665	宝塚市末成32-5 殖産小林寮425号
新佐 准	659	芦屋市呉川町8-11 打出竹友寮109号
島藤 人	662	西宮市殿山町10-45 三井ホーム独身寮201
	663	西宮市甲子園三番町12-8 甲子園竹友寮308
	662	西宮市西平町2-40-405
	665	宝塚市武庫山2-12-15
	661	尼崎市東園田町6-15-6
	673	神戸市花園町1-3
(高 校)		
浜岩 修	653	神戸市長田区梅ヶ香町1-8-4
秋山 三	662	西宮市甲東園1-10-11
西村 俊	655	神戸市垂水区西舞子8-16-19
泉 良	658	神戸市東灘区北青木3-20-39 ファミール青木104号
	651-21	神戸市西区学園西町7-3 アミティ715-106
(専 門)		
鬼頭 俊	661	尼崎市武庫豊町2-11-15
渡部 征	673	明石市西新町2-1-6-221
中井 道	662	西宮市高塚町2-22-511
田中 八	663	西宮市浜甲子園3-4-21
澄川 家	655	神戸市垂水区桃山台5-7-5
原中 寿	673	明石市貴崎町5丁目 ライオンズマンション西明石第3-705
矢島 達	663	西宮市上甲子園4-11-8
阿部 英	662	西宮市戸田町6-1-504
	653	神戸市長田区大橋町4-4-18 ダイアパレス西神戸511号

## 阪神大震災踏査報告

工学院大学建築学科講師  
小嶋 勝朗

### ■ 始めに

95.1.17阪神・淡路大震災で犠牲になられた方々に心からのお悔やみ申し上げます。また、被害を受けた方々には心からお見舞い申し上げます。

今回の調査は、以下の調査実施概要に示す通り、平成7年2月9・10・11日の3日間にわたり大学院生・研究生・卒業生と私の計8名で行いました。なお、交通費等の調査費用について校友会・建築学科同窓会・建築学科から補助をいただきました。ここに厚く、お礼申し上げます次第であります。

### ■ 調査実施概要

A. 調査目的：都市計画の中嶋泰研究室と小嶋研究室が合同で、大震災後の主に歩道部分を衷心とする歩行者スペースが、どのような状況又役割を果たしているのか、又都市整備上特に問題があり、又見落とされていると思われる天の抽出をすべく踏査のうえ考察する事とする。

B. 調査日時：平成7年2月9・10・11日（3日間）

※大震災発生後、約25日を経過している為、復旧状況を併せて考察することが出来る。

C. 調査参加員：8名 小嶋勝朗

岩田義弘・黒田夏樹・関剛・高橋秀樹（大学院M I）  
山田和徳（研究生）  
山本貴雅・早船智彦（卒研生）

D. 調査範囲と調査内容：調査期間の関係もあり、特に倒壊・火災のひどかった地域を中心に、徒歩で踏査の上、写真撮影を行った。又必要に応じ簡易測定等も行っている。とにかく、被害範囲が非常に広地域にわたっており、その中を線的に踏査しての調査である為、必ずしも全体像を捉えているとは言えない。【一図『踏査ルート・鉄道と道路の主な被害』参照の事】

又、踏査ルールは歩行者利用の多い歩道部を持つ街路が調査の中心となった為、駅前・商店街・幹線街路部分が主に観察されることとなった。具体的調査範囲は被害の特に酷かったJR兵庫駅周辺から神戸電鉄有馬線長田駅周辺までを西端とし、東端はJR西宮駅から阪急神戸線西宮北口駅周辺までのJR東海道線を軸に阪急電鉄神戸線と阪急電鉄本線に挟まれた範囲である。

E. 徒歩による踏査距離：3日間の踏査とは言え、1日目・3日目は東京都の往復時間が含まれていること。神戸市内に宿泊地を探すことが困難な為、大阪市内との往復に振替バスや宝塚・三田経由の阪急神戸線が長田に出ると迂回ルートを使わざるを得なかった事から、1日目約11km、2日目約19km、3日目約15kmで、3日間合計で約45kmぐらいが踏査された事になる。写真撮影や計測等を行いながら、危険を避けての踏査距離は限界に近いものであったと危惧している。なお参加員が日毎にたくましくなっていくのが頼もしく見えた。

### ■ 歩道部分の被害パターンの分類と解説（主に広幅員道路の歩道部分を対象とする）

被災後23日目にして我々は現地入りした。JR吉住駅から振替バスで三宮駅に向かった。見た目に無傷な建物もあれば、外見は差ほど無いが良く見るとかなりの被害を受けている建物、全く原形を留め無いほどに倒壊した建物等が入り交じっており、築年数構造工法材料等々の違いで単純に総括することが困難であることが想像できた。又、路面のひび割れ状態等から隣り合う家でも、力のかかり具合に差があった事が予想され、今回規模の地震に耐える建物建設はそう簡単なものとは考えられなかった。

一歩裏道に入ると、全く歩行不可能な道路が随所に見られ放置されていた。又、広幅員街路の歩道で、歩行者の利用も多く被災直後とは状況の違うのではと思える歩道でも完全に塞いでしまっているところが数多く認められた。

歩道部分の被災パターンは、大別して四つ。これが単独又は複合して被害を形成していると言える。

A. 沿道施設は歩道側に倒れたりしていないが窓ガラスの落下・タイル等仕上材の剥離、下落・構造材の一部落下・看板クーラーの落下等。

①窓ガラスの落下：今回も事務所建築等に多く見られた。第一段階として歩行者の多い歩道に面する2又は3階以上の窓ガラスは網入りガラスの使用を徹底することが特に望まれる。1～2階部分も見栄えが良く且つ飛び散らないガラス材料等の開発が望まれる。

②タイル等仕上げ材の剥離落下：ガラスも落下することで、死傷自己にも結び付くが、ビルの仕上げ材等の落下も自重があるだけに直撃されれば大きな事故となる。自信破壊による落下の無い仕上げ材及び工法が望まれる。

③構造材の一部落下：特に今回のような酷い震災にあっては、柱、梁等も破壊され路上に飛び散った。頻繁に起きるものではないが、対策が必要である。

④看板・クーラー等の落下：一番心配していたのであるが、思ったほどには被害がなかった。無論、看板・シェードの落下が無かった訳ではないが、この場合は取付け部分を含む建物本体が倒壊しているように見受けられた。

B. 歩道自身の被災及び歩道上のファニチャー等の倒壊等。

①歩道に亀裂等：場所によって亀裂の大きさ・方向は千差万別。その結果、縁石が車道側に倒れ込んだり、隆起又は陥没が起きている。特に敷地境界部に被害が集中し見られた。液状化による汚泥の吹出し、地下埋設物のガス・水道管の破損による吹出もあった。

②街灯・電柱等の倒れ込み：ガードレール・標識・街路樹等倒壊も見られたが、B-①に付随して起きているものがほとんどに見えた。

③アーケード・バス停の被害：火災に問題有りとするアーケードは、今回注目の施設の一つであったが、三宮センターは極めて少なく、両側の店舗が倒壊していても乗っていた。それ以外でアーケード・バス停被害は屋根材のホコの延焼が上げられる。

④路駐車両・フラワーボット等の倒れ込み・移動：逃げ

道を塞ぐなど問題は多い。

C. 沿道施設の歩道への倒れ込み等。

①建物：上部からの倒れ込み、下部がずれ出したもの、階の途中が座屈して飛び出したもの、一階が座屈して二階が飛び出したもの等が見られた。

②塀・擁壁・花壇：以前から指摘されているブロック塀・万年塀の倒壊、その他自重のあるものに危険性が感じられた。但し、生け垣を防災面から進めるものもあるが、敷地規模の狭い我国の場合、防犯面等を考えると一概には推奨出来ないものがある。

③自販機・置看板等：直接下敷きにならない限り大きな問題とは言い難い。設置に当たっては土台を強固にする等の適切な対策が欲しい。

D. 車道側から車両などの飛び込み等。

歩行中車両が運転不能で歩道部に飛び込む。又駐停車車両がずれ込む等の危険である。

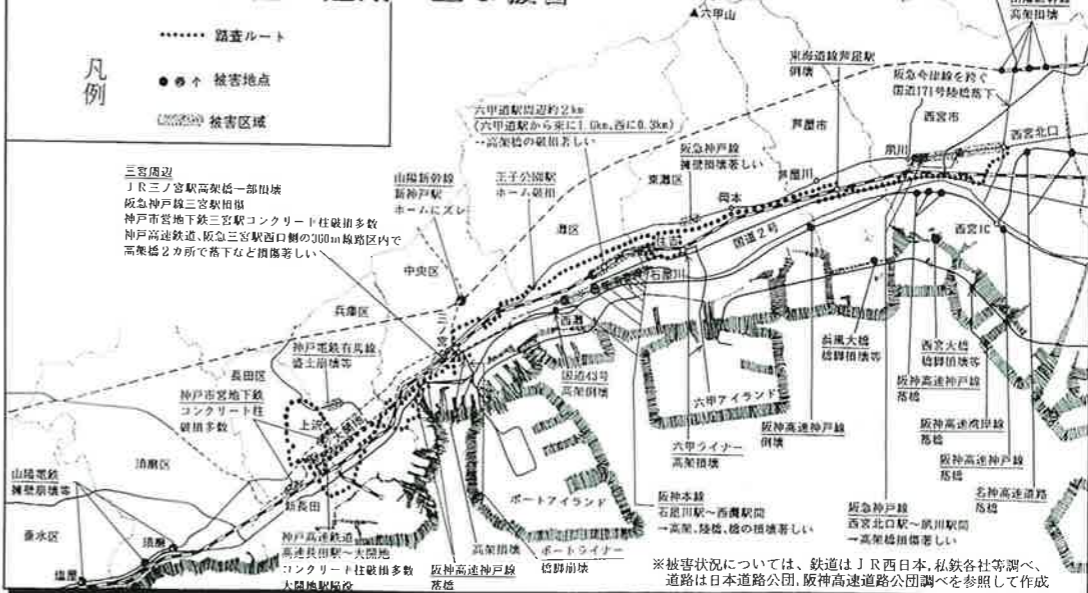
### ■ 震災復興都市計画図の在り方について

鷹取商店街周辺の一面の焼け野原の中に無くなされた方々に手向けられた花が痛々しく咲いており、その脇には区画整理事業の小さな看板が数枚ぶら下げられていた。住民が着の身着のままやとこのこと命一つで避難所や親戚・知人宅と避難先もはっきりしない、つまり住民の意見が一番聞けない状況をまっていたかのような都市計画事業の告示は「火事場泥棒・弱いもの苛め・行政の横暴」といった言葉があまりにぴったりとするものであった。早々に事業決定に持ち込み、話し合いと称して決定

づみ事業を盾に住民の意向を無視して事業を進める。確かにこれは今までの言わば常套手段であった。横浜・神戸は市レベルにおける都市計画先進地として知られて来た所である。その神戸市の対応は衆目の注視するところであった。そこで行われたことはどのようなことだったのか。確かにだれが見ても震災復興事業による街づくりは早い二越したことは無い。たしかに今回のように住民の弱みに付け込んだ事業は進めやすいものであろうし、しかし、長期化し死傷者まで出続けた成田空港問題等の「ボタンの掛け違い」による行政不信をより広く全国に知らしめる結果となった。相変わらず校庭や体育館に間仕切り一つ無い状況で、家畜のような生活を強い続け、ボランティアに任せっぱなし、架設住宅づくりも今までの居住地から遠く離れ老人を隔離するような場所に送り込む。このような被災民の生活を顧みない施策は、せっかく生き延びた人達を避難生活の中でストレス原因の死亡者となり増え続けている。

我々は建築や都市づくりの際に、いつの間にか写真や図面や地図に表現出来るもののみを「都市・街」と思っていないだろうか。街とは人々の生活あつての街ではないか。まずは住民の生活を救済し自立を促し自力更生の活力を与え、見通しがたつて初めて住民と対等な話し合いが出来るのではないか。どんなに雑誌等に取り上げられようと住民の生活を忘れ切り捨ててどこに「真実の美しさ」が有ると言うのか、そんな思いの内被災地を後にした。

## 踏査ルート・鉄道と道路の主な被害



この報告書は、約6,900文字（3ページ分に相当）に及ぶものですが、紙面の関係から筆者小嶋先生のご了解を得て、主に項目単位の文章削除を中心に文面を縮小させて頂きました。ここに厚く御礼申し上げます。（広報部）

● 阪神大震災

阪神大震災に遭って

兵庫県神戸支部 石田 俊文  
建築学科 S49年卒  
1995. 1. 31 記

冠省 この度の阪神大震災につきましては、早速に精神的にも物質的にも暖かい支援を頂き、有難くお礼申し上げます。

私が関西に帰りまして10数年になりますが、地震の経験は数える程であり、関西では地震は無いものと全く油断しておりました。

地震が起きた時、“ガガーン”と言う地鳴りの様な音がして体が宙に投げ出され、鉄筋コンクリートの柱が45度ぐらい振れている様に見え、マンションが潰れると思いました。

揺れが治まり、外を見るとすぐに火の手が上がり、慌てて子供部屋に行くとき長男が本棚の下敷きで動けなくなっていました。妻と必死になって救い出すと、今度は洋服ダンスがドアに倒れ掛かって、次男が部屋から出られず、やっとの事で30cm程の隙間を作り救い出し、なんとか外に逃げ出しました。

外に出て見ると、マンションの北棟が傾いておりブリッジも全て崩れ落ちていました。その時になって初めて顔中血だらけになっていることに気がつきましたが、幸い頭を少し切っただけで傷は大した事もなく、奇跡的に私以外の家族も擦り傷程度で、大丈夫でした。

夜が明けて本山南小学校に非難し、暫くたってから、今回倒れた住吉神社の裏に妻の従姉妹が一人で住んでいるのに気づき、妻と二人自転車で探しに行きました。彼女を見つけた時は、目の前で火事が起こっており、荷物も持たずに逃げ出して来ました。

小学校に帰って見ると、避難の人がどんどん集まって来ており、足の踏み場もなくなる様な状況になって来てましたので、大阪に脱出する決心をしました。

車は前も後ろもガラスが割れていましたが、エンジンが掛かったのでガラスとコンクリートの塊を外に出し、窓のない車で阪神高速道路が崩れ落ち車が潰れているのを横目で見ながら国道43号線を大阪に向かいました。夜中に大阪の兄の家に辿り着き、初めて食事をとり、フトンに入った時やっと生きていたんだと感じました。

同封した写真は、数日後に荷物の一部を取りに帰った時、この地震を忘れない為に、建築物の壊れ方を記録する為に、そして景色が変わってしまうであろう神戸の思い出深い本山のわが町を忘れない為に、自転車写真で写しに行ってきたものです。わが家の周囲の写真を撮っていると、涙が止まりませんでした。

情けないけど、地震の後は涙腺が弱くなってしまい、参っております。

子供達は、大阪の小学校に仮の入学をしました。長男は後3カ月で卒業だったのに……。

子供が仮入学する前夜は私の44歳の誕生日であり、ささやかな誕生祝いをしながら家族会議をしました。そして子供達にも写真を渡し、『今度の地震の事は絶対に忘れるな！ そのかわり父さんがマンションを建て直し、必ず同じ神戸の、本山の同じ場所に帰れるようにするから』と約束をしました。

ところで私は私で、マンション建て直しの方法を研究しようと思っています。補助金をもらい、総合設計かその他何かの方法で容積割増しをして、現在は165戸のマンションですが、我々が住む以外に分譲できる部分を何割かでも確保出来れば、マンション建て直しも現実味があると思っております。時間が掛かるとは思いますが、……今、マンションで同じ気持ちでやってくれる仲間を集めています。

そこで建築関係の方で、そのようなノウハウを持っている方は、その方法なり資料が頂けないでしょうか？

何か取り留めのない手紙になりましたが、阪神大震災当時の状況と近況の報告で皆様の温かなお励ましに対する御礼とさせていただきます。

本当にありがとうございました。 早々

このお手紙は、全国大会前日の懇親ゴルフ大会と一緒にプレーをした石田さんから頂いたもので、ご本人の承諾を得て、原文のまま掲載させていただきます。

石田さん頑張って下さい。 広報部 (1995. 2. 26 記)

● 阪神大震災特集写真 工学院大学建築学科宮澤研究室 緊急現地調査報告書より抜粋。



ピロティで壁が少なかった為1階がつぶれた鉄骨造のマンション。



ピロティの壁が少なかった為に1階がつぶれた鉄筋コンクリート造のマンション。



1階の間口方向の壁量が不足して到壊した木造個人住宅。(東灘区)



土台と柱の接合不良の為新築中でありながら、壊れた木造住宅。



盛土の敷地で基礎工事不良の為キレツの入ったプレハブ住宅。



鉄筋が入っていない古い住宅の基礎。土台もくさっている。



活断層が庭先を走った為崩れた住宅。(淡路島 北淡町)



ボックスコラム(箱型鉄骨柱)の1・2階の間の溶接不良工事の例。

編集後記 (広報部 副会長 米沢隆男 部長 片岡国幸 理事 清水寛一郎 木下忠雄 椎塚久雄 谷口宗彦 阿部洵 太田雅康)  
初めに、阪神大震災 (H.7.1.17) に遭われ被災を受けました多くの校友の皆様方に対しまして心からお見舞い申し上げます。特にこの地区には、先般 (H.6.10.29) 大成功のうちに神戸全国大会を成し遂げました大勢の校友の方々が在住されておりました。広報部としては、全国大会の苦心談や前日の楽しかった親睦ゴルフ大会の記事をお願いした経緯がありましたにも拘らず、悲傷にも本号は阪神大震災を特集記事にすることになりました。本当に残念であり、躊躇も致しましたが、後世に残る校友会報でもあり、広報部の総意として掲載しました。  
尚、この会報をもって上記広報担当者は3年間の役目とさせていただきますが、満足できる会報をお届けできなかったことご容赦の程お願い致します。  
最後に、校友会報に執筆下さいました、学園本部、大学、専門学校、高等学校並びに校友と校友会事務局の皆様方に対しまして、広報部を代表して厚く御礼申し上げます。  
(片岡記)

# 工学院大学 新宿テクノキャンパス 落成記念全国大会

第12回 東京大会  
全国2000名大集会

ご家族とともにご出席を

開催日 平成8年10月26日(土)

大会会長

校友会会長 南雲芳夫

実行委員長

東京支部長 坂田佳昭

工学院大学校友会全国大会(神戸にて)



校友会報43巻第1号 発行所●社団法人工学院大学校友会  
振替 00130-2-91108番 発行年月日●平成7年4月25日

〒163-91 東京都新宿郵便局私書箱第13号 東京都新宿区西新宿1-24-2 TEL.03(3342)2064  
印刷所●弘報印刷株式会社 〒104 東京都中央区入船1-5-11 TEL (3552)9731